

神戸大学附属特別支援学校 第25回障害児教育研究協議会

参加費
無料

研究主題 「ケアリングを基盤とした対話的で深い学びの創造」

今回の本校の研究協議会では、初めて「ケアリング」をキーワードにして取り組むことにしました。「ケアリング」という語は、合理的に社会を運営しようとする男性健常者中心主義的な力に対して、子どもや高齢者や障害者のケアの場面に現れる世界を示し主張する語としてスポットを浴びています。「ケアリング」は、例えば、教室で教師が子どもの遊びの世界に引き込まれてしまう状況が、文字に書かれた教育目標を超えた力を教師と子どもの双方にもたらしているのではないか、という問いを生み出す語です。このケアの場で生まれる力が、文字に書かれた教育目標を突き動かし、教育実践に生命を吹き込んでいるのではないか、という理解にもつながっていきます。また同時に、その新しい教育実践の捉え方は、男性健常者中心主義社会に対するオルタナティブを示し、インクルーシヴな社会のイメージにもつながっていくでしょう。

まだまだ私たちも「ケアリング」という語を消化しきれていない中でのご提案になりますが、特別支援教育に固有に生まれる力を言語化していかなければならないという強い動機から、必然的に採用することになった語でもあります。ご参加いただくみなさんにもご助力いただきながら、授業実践から生まれる力を発見し、言語化する試みに挑めたらと思います。多くの方のご参加をお待ちしております。

神戸大学附属特別支援学校 校長 津田 英二

対面開催（各学部15名限定） 期日 **2021年11月20日（土）9:00～17:00**
オンデマンド配信 期間 **11月26日（金）～12月19日（日）**

8:30 9:00

11:15

12:30

13:30

14:30 45

17:00

受付	授業公開 小・中・高	休憩 事前配信授業 上映	全体会			学部別分科会
			校長 挨拶	基調提案	講演 渡部 昭男先生	

全体会

基調提案

本校では、子どもたちが、自分の思いに気づき、仲間とつながり響き合いながら、自分の世界を拡げていくことを願って、授業づくり、生活づくりに取り組んでいます。子どもたちが、「自分の思い」に気付くには、傍らにいてその声を聞き取る存在が不可欠です。「自分にとって意味のあること」をともに味わい、深め、響かせて寄り添ってくれる教師がいて、子どもは、「自分の思い」に気づき、「自分にとっての意味」を確かにしながら、新たな世界に踏み出していくのです。

教師もまた、子どもの声に耳を傾け、その「意味世界」をともに味わったり、響きあったりすることを通して、感受性を高め、新しい自分に気づいていきます。

本校ではこのように、教師と子どもが、お互いに心を揺らしながら、応答し合い、それぞれに変容していく「ケアリング的關係」を大事にして、教育実践に取り組んでいます。

このたびの研究会では、授業の中で教材が生成されて行く過程や、こどもと教師とが相互に変容していく様子をご覧いただき、「対話のあり方」や「集団で学ぶことの意味」を考えていければと思っています。

研究推進委員長 殿垣 亮子

オンライン講演

「ひとと生まれて人間となる
～糸賀一雄からのメッセージ～」



渡部 昭男 先生
神戸大学大学院
人間発達環境学研究所
名誉客員教授
鳥取大学 名誉教授

渡部先生には本校の前校長として発達保障や自分づくりの観点から教育実践研究にご助言いただきました。今回は、研究協議会のテーマであるケアリングと、特別支援教育の原点とも言える糸賀一雄の思想について語っていただきます。

著書：『能力・貧困から必要・幸福追求へ』 日本標準 2019

共編著『糸賀一雄研究の新展開』三学出版 2021 ほか

小学部

学級活動 4~6年生学級



共同研究者
大宮 とも子先生
(日本福祉大学)

応答関係を大事にした小学部時期の教育実践を探る ~子どもの姿から何を読みとり、どのように働きかけるのか~

小学部時期の子ども達は、さまざまな活動との出会いを通して、「わかるってたのしい」「できるってうれしい」と感じたり、逆に「自分のつもりとちがう」といった思いを態度で表現し、大人にその思いを聞きとられる中で、今まさに自我を発揮しています。言葉だけで繋がるのが難しい子どもの見ている世界を想像し、「どのように寄り添ったらいいのだろう」と悩み、どのように応答することが子どもの願いを育むことに繋がるのかを考えて、日々教育実践を作っています。

学級活動は、クラスのみんなで楽しめる活動に取り組むことで目的意識を育み、集団の中で活動する楽しさや自分の力を発揮する手応えを子どもの中に蓄積していく授業です。分科会では、教師と子どもの応答関係を分析し、子どもの内面の読み取りを深めて教材を変化させていくプロセスについて論議します。

中学部

国語・数学 基礎



共同研究者
川地 亜弥子先生
(神戸大学)

新しい出会いの中で「自分」を捉え直す中学部時期 ~リアルな体験を通して深く考え、仲間と響き合う授業づくり~

今の子どもたちの育ちの場はテレビやネットからの情報に満ちあふれています。そのため、自分で感じ取ったり考えたりして物事の真理にたどりつく過程を経ないまま「知った気」「わかった気」になりがちです。そんな子どもたちが、実感の伴わない表層的で時には荒削りなことばでしか自己を語れず、自分の要求を見つけれずに混乱している姿に、どう働きかけたら良いのかと悩む毎日です。

中学部時期は、これまでの大人とのつながりや支えとは違う、同世代の仲間の中に身を置いてつながり合いたい要求が現れる大切な時期です。だからこそ、仲間と共に、五感を働かせることが大切だと考えます。感情を揺さぶるリアルな体験を通して、仲間と一緒に深く考え、新たな真実を発見し、実感ある自分のことばで語り合えるような『国語数学基礎』の授業づくりに取り組んでいます。



共同研究者
赤木 和重先生
(神戸大学)

豊かな人格発達をめざす高等部教育 ～素材を変化させて使用価値を生み出す手応えや喜びが 感じられる生産学習の創造～

高等部の3年間は『子どもから大人へ』『学校から社会へ』とつなぐ学校生活最後の時期です。本校高等部では、生徒たちが教師や仲間と信頼関係を築きながら、その多様な価値観に触れたり、心が揺れ動くような活動に出会ったりすることで、自己選択、自己決定の力を育むことを大切にして教育実践を行っています。

今回協議する生産学習の陶工班では、主体的に掌や道具を使い素材に働きかけ、まずは自分が納得いくものを製作することから、他者の要望も受け止めながらより用途や目的に見合った『価値あるもの』をつくりだしていくプロセスを大切にしています。

一人ひとりが大切にされる社会の一員として活躍できることを願い、学校教育として『ものづくり』に取り組む意味を今一度問い直し、「人間にとって働くとはどういうことか」ということを皆様と考え、深めていきたいと思えます。

- ★ **対面開催の方は 11月12日(金)より授業動画を配信いたします。** ご視聴いただいでご参加ください。(当日の昼休みも流します。)
- ★ **オンデマンド開催の方には、11月26日(金)より公開授業(事前配信)、** 基調提案、全大会講演、学部研究報告と共同研究者の助言を公開いたします。

公開期間

2021年11月12日(金)～12月19日(日)

参加申し込み グーグルフォーム

- ・参加方法は、「**動画配信のみ**」「**動画配信+研究協議会対面開催（45名限定）**」のいずれかです。
- ・申込 URL または QR コードから申込フォームに必要事項の入力をお願い致します。

<https://forms.gle/oY5n3ujboqxf9Gcy6>



参加申込受付の締め切り 対面開催 11月 12日（金） / オンデマンド開催は 19日（金）

交通案内

- 自家用車で ◇国道2号線より「大久保東」を北へ約5分。
 ◇第2神明「大久保インターチェンジ」より、約5分。
 - タクシーで ◇JR「大久保駅」より約8分。JR「西明石駅」より約15分。
 - 神姫バスで JR「大久保駅前」より
 - ◇「明石中央体育会館」行き「養護学校前」下車すぐ。 8:48 発→8:56 着
 - ◇「高丘循環」行き、「高丘1丁目」下車。 8:05 発 8:30 発 （バス所要時間 12分、徒歩約 12分）
- ★昼食は、本校より徒歩5分ほどの「第2神明・明石サービスエリア」も利用いただけますが、それ以外にコンビニ等の店はありません。お弁当をご持参ください。

神戸大学附属特別支援学校
〒674-0051 明石市大久保町大窪 2752-4
TEL 078-936-5683
e-mail kusepe-yougo@edu.kobe-u.ac.jp